

ぬり糸　ゴドモトマリ

製作

双六のさいころつゞき

お金

おもちゃや店の商品もほぼ出来上つたのでボール紙を丸

く切らせて、一センチ二センチ三センチ十センチなぞかゝせてう

りかひ遊びの準備をする。

正　札

畫用紙或は白ボール紙にお金同様に一センチ、二センチ、十

センチの正札をかゝせる。

年長組、第二保育期

—— 満五歳、満六歳 ——

生 活 訓 練

第十週

幼稚園さいふのところで、言葉の作法に就てきただけのことをしなければならぬか。どこまでの要求が適切か。之れは相當の問題になる。こゝは此の問題を全面的に議論す

る場所でないが、ぎりぐりのところ、次の二つだけは必ず注意しなければならぬ。

(一) 先生がいゝ言葉を使ふこと。

(二) 言葉によつてその奥の心もちの養はれるものは幼児

にもよく注意すること。

この中、第一の方は解説の要もない。たゞ實際問題としては必ずしも注意の要がなくもないかも知れない。

第二の方は、一寸説明がある。たゞへば此欄に上つてゐる。「ごうご」、「ありがたう」、「お先へ」などの類は、人に對する敬意、謝意、讓意といった風の心もちを、その言葉から心の内へ起させるものである。幼兒はかうした言葉を出さずにゐられない程の深い強い感じを内にもつものでもない。しかし、それだけの心もちを養つてゆきたい。そこで言葉の方から先きに入れてゆくのである。人のもつてゐるものを借りる。ひつたくつても使ひたい自分本位で、借して呉れいとも言ひそうなきころを、「ごうご」につけさせることで、ごうごらしい感じをもたせるのである。ごうご借せやいごいふ譯にもゆかないから、借り方も靜かにならうごいふもの。英國のいゝ家の子ごもなきが、よくブリーズごいふのも可愛らしいものだ。「有り難う」も同じで、そんなに深く感激してゐるごいふ譯ではなくても、人の好意に反應するやさしみの聲である。「お先へ」それは前の二つよ

り少々禮儀立つて來るが、人を押しのける心、人を追ひ越す心、ごうごいふ、あらくしい心もちを、一寸、その出足の一步前ごいふごころで和げる言葉である。

言葉に限らず作法や禮式の教育がごうごするご、相手を尊敬するよりも自分を上品に見せる心を養ふごころがないごも限らない。そんな似而非お上品は、少くごも幼稚園では全く禁物である。言葉を始終心もちへ即させて、心もちの眞の作法、禮式を養ふための言葉の教育でありたいのである。

それにしても、氣になるのは、先生方のお言葉使ひである。

第十一週

小學校入學が近くなる。事實近くなる以上に、子ごも達の心の中で近くなる。或は、子ごも達人よりも、親達の心中で一層近くなるかも知れない。當然のごころで、又、よろこばしいごころである。

しかし、その小學校入學を迎ふる心が、必ずしも純なよろこび一本で通せないのは、現代の悲哀である。その中で、

幼稚園の先生の執るべき態度如何。先づそこからしかり腹をきめてかゝらなければならぬ。さうして子ぎもの喜びに心を合はすべきか。子ぎもらしい希望をさう正しく描かせるべきか。その喜びと希望の明るさの中に、さういふ心構へを用意させるべきか。——それも、何も幼稚園を急に

誘導保育

第八週

人形の家つゞき

ラヂオ

文明の利器の中でも、最もポピュラーなもの、おそらくごこの家庭にも備へられてあるであらうラヂオを、是非人形の家にも一言ふので計畫された。

一枚の板にラヂオの表の圖を描きて、之を鋸ミシンで切抜き、波長を合せる目盛りをつけ、これを表面にしてラヂオ箱を拵へる。度盛り器をぐるぐる廻る様にしたので、子供達は「JOAK、之から何々の放送がございます」と言つ、

小學校豫備門にするといふのでは決してない。要は、お正月前、來年はの楽しみ心に、さう小學校を楽しみ附け加へさせるかの話である。實際の仕度も無いではないが、それは一歳大きくなつてからでよからう。

た調子で、拵へた當座は實に繁昌である。

諸道具配置

いよ／＼立案されただけのものが略々完成したので、それ／＼人形の家に配置する。間口が三メートルもあるのでかなり広いお家が出来た。それで、衝立で二ツに仕切つて一ツは客間、一ツは臺所と言ふ風にした。客間の方には、先づズツクに果物の縫込みと言ふ面白い敷物を敷いた。まここに可愛らしく綺麗なので、大人の私共が家の應接間にも欲しいと言つた程だつた。こゝにはクリーム色に塗つて